

第3学年国語科学習指導案

児童 1組 男子11名 女子12名 計23名
指導者 佐藤幸子

- 1 単元名 進んで話し合い、発表しよう（光村図書 3年上 わかば）
教材名 「分類」ということ

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、2年生において、事柄の順序を考えながら、身近な話題に興味をもって話したり聞いたりする活動をしてきた。また、3年生の1学期教材「道あんないをしよう」では、相手に正確に伝わるように順序よく話したり、話の中で大切な言葉をおさえ、順序に気をつけて聞いたりする活動をしてきた。

また、現在、国語の学習以外でも朝の会でスピーチコーナーを設け、学級の友達の前でテーマに沿ってスピーチをするという活動を積み重ねてきている。1対1で話し手になったり聞き手になったりする学習は経験しているが、1対複数、学級全体などで話し合うという学習は本単元が最初である。

この単元の目標に関わる「聞き手に分かるように筋道を立てて話すこと」「互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合うこと」について事前の意識調査をしたところ、結果は次の通りであった。

質問項目	はい	どちらかという と はい	どちらか という と いいえ	いいえ
①あなたは、みんなにお話するときに、大事なことは何か考えて話していますか。	14%	68%	9%	9%
②あなたは、みんなにお話するときに、お話のじゅんじょを考えて話していますか。	45%	32%	18%	5%
③あなたは、話し合いをするときに、自分の考えと友だちの考えをくらべながら、話し合おうとしていますか。	23%	36%	18%	23%
④あなたは、先生や友だちのお話を聞くときに、大事なことは何かを考えて聞いていますか。	27%	45%	23%	5%
⑤あなたは、みんなにお話するときに、声の大きさやはやさに気をつけて話していますか。	31%	50%	5%	14%

調査の結果から、大事なことや順序を考えて話したり、聞いたりする意識は多くの児童が持っていることが分かる。また、声の大きさや速さを意識して話している児童も多い。どの子も自信を持って話すことができるように、発表内容の組み立てをしっかりと考えさせたり、グループ内でアドバイスし合ったりさせたい。一方で、話し合いで自分の考えと友だちの考えを比べたりしながら話し合うことは4割以上があまり心がけていないようである。学級会などの話し合いの経験はあるものの、国語の授業の中で、比べ合いながら話し合いをすることは今回の単元が初出の内容であることも理由の1つであると考えられる。よって、今回の学習では、話の内容の中心は何かを確認し、話し手も確実に伝えることを意識できるように復唱を取り入れたい。

これらのことから、今回の学習では、相手に自分の考えを伝えるために筋道を立てて話すことや聞き取ったことを相手に伝えること等を学習し、話し合いの基本となる「自分の考えと比べて話す・聞く」ことを丁寧に扱っていきたい。また、ただ話すのではなく、相手意識を大切にして、発表のときには目線を上げて相手を見て発表したり話したりすることも意識させていきたい。

(2) 教材について

本教材は、「分類」という思考活動をテーマとし、大きく3つの学習活動で構成されている。1つ目は教科書のねこの挿絵を見て、ねこをどのように分類したのかを話し合う活動である。ねこを分類する観点がそれぞれ違うことに気づき、お互いの考えを尊重し合うことがここでは重要である。2つ目は、自分で調べる課題を決めて、調べ方を考える活動である。教材の中では、調べ方の一つとしてインタビューを取り上げている。3つ目は調べたことの発表である。ここでは、伝えたいことの手がかりが相手によく伝わるような発表のしかたが必要となる。

3,4年生の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる」である。

本単元のねらいは、「分類」や、その観点の違いに興味を持ち、身の回りの事柄について調べ、発表して友達と交流することである。

また、主たる指導事項は、「相手に自分の考えが分かるように、事例を挙げながら筋道を立てて適切な言葉づかいで話すこと」(A(1)イ)「互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うこと」(A(1)オ)『「分類されているもの」を見つけて調べ、要点をメモすること」(A(1)ア)「話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を発表したりすること」(A(1)エ)である。

つまり、理由や事例を挙げながら聞き手がよく分かるように話の中心を考えて筋道を立てて話すことや聞き手が聞きやすいような場に応じた適切な音量や速さで話すこと、また、互いの相違点や共通点を考えるために話の中心に気を付けて聞くことが大切となってくる。ここでの話し合いはブレインストーミング的な話し合いであるので、分類におけるそれぞれの観点の違いに気づきお互いの意見を尊重し合うことや、話し合いにより視野を広げ自分の考えを深めることができるということを実感させるものである。これは、この後の「名前を付けよう」での話し合いの手順の基礎を学ぶ学習につながる。また、インタビューや発表などの活動を通して、話したり聞いたりすることのポイントや言葉遣いなどを考えることができる。よって、今後の様々な学習、生活の場面で活用していくことのできる大切な単元であると考えられる。

(3) 指導に当たって

つかむ段階では、初めに、分類をすることの意味を考え、単元全体の見通しを持たせる。その後、教科書のねこの挿絵をグループ分けする作業を通して分類の仕方や観点に気づかせ分類し、その分類をもとにペアで比べ合いを行う。その比べ合いでは、話の中心を分類の観点におき、分類の観点が同じか違うかに気を付けて、自分の観点と比べながら聞いたり話したりできるようにしたい。そのためには、相手の話を聞き取る力が必要であるので、復唱を取り入れ、正しく相手の話を聞き取り、自分の考えを話すことができるようにしたい。その後、資料「分類」の読み取りを生かし、グループでの話し合いを通してねこの挿絵を2つの観点から分類する。前回の比べ合いをふまえて「話し合いで大切なこと」を生かし、より良い話し合いになるようにしたい。

ふかめる段階では、身の回りで分類されているものを探して何がどのように分類されているかを調べさせる。まとめるための観点には、何がどのように分類されているか・どのような工夫がされているのか・どのようなことに役立っているのか・調べて思ったこと(感想)の4点があることを知らせ、見通しを持たせるようにしたい。その際、調べる方法の一つにインタビューがあることを知らせ、インタビュー練習をする。インタビュー練習では3人組をつくり、インタビューする人・される人・その様子を見てアドバイスする人と役割を決め、交代しながら評価し合えるようにしたい。また、調べるときには要点をメモすることが必要であるので、速く箇条書きでメモすることも具体的に示しながら、メモの仕方にもふれるようにしたい。

まとめる段階では、発表会を行う。発表会では自分が調べたことを伝えるという目的意識を持たせ、聞き手に分かりやすいような話の組み立て方のモデルをもとに、話の組み立てについて考えさせるが、グループ内で相互評価し、聞きやすい発表になっているかどうかをアドバイスできるようにしたい。その際、原稿を読むだけに終わらないように、聞き手を見たり、声の音量や速さ、また強調したいところ

には間に気をつけたりするなどの聞き手を意識した発表ができるようにしたい。

さらにこの単元では、話し合いで大切なポイントである「同じところ・違うところ」を聞き取ること意識させ、内容に合わせて、学級全体やペア、3人組、少人数などの様々な形態を通して相手との関わりを持たせていきたい。また、自己評価や相互評価を用いて、自分の話し方や聞き方はどうかを振り返らせるようにしたい。そして、この単元の学習で身に付けた力を名人カードで確認しながら意欲付けを図っていきたい。

(4) 家庭学習と授業のつながりについて

つかむ	・新出語句、漢字等の意味理解に関する調べ学習。 ・音読練習。 ・学習した話型をもとにした分類についての作文。
ふかめる	・資料収集、資料整理。 ・発表原稿作成の補充学習（下書き、推敲等）。 ・スピーチの補充学習。
まとめる	・感想文や自己評価カード等の整理。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 「分類」や、その観点の違いに興味をもち、身の回りの事柄について進んで調べ、発表して友達と交流しようとしている。

(2) 話すこと・聞くこと

- 身の回りの「分類されているもの」について調べ、要点をメモすることができる。
- ◎ 「分類されているもの」を見つけ、分類のしかたやその意味について、相手によく分かるように理由を挙げながら筋道を立てて話すことができる。
- ◎ 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。
- ◎ 「ねこの分類」について、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合えることができる。
- 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。

(3) 読むこと

- 資料「分類」を読み、内容を理解することができる。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解することができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
・分類やその観点の違いに興味をもち、身の回りで分類されているものを調べ、交流しようとしている。	・分類のしかたやその意味について、相手によく分かるように、理由を挙げて筋道を立てて話している。 ・話の中心に気をつけて聞き、分からないことは質問したり感想を述べたりしている。 ・「分類」について、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合っている。 ・身の回りで分類されているものを探して調べ、要点をメモしている。 ・相手を見たり、言葉の強弱、間の取り方などに注意したりして話している。	・資料「分類」を読み、いろいろな分類の仕方があることを理解している。	・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 ・必要な語句を増し、語句には性質や役割の上で類別があることを理解している。

5 学習指導計画（全15時間）

はかかわり合いの場

過程	時間	学習活動	教師の働きかけ	評価規準（方法）
つかむ	1	単元の見直しを持つ。 ねこの挿絵を見て、分類の観点を見つけ、整理する。 ・ペアで問題を出し合い、分け方の観点を見つけ合う。	・初めての分類なので、観点は1つとし作業を通して理解させる。 ・ペアで問題を出し合いながら、ねこの絵をよく観察させる。ねこの特徴を伝えられているか確かめる。	ア 分類やその観点的の違いに興味を持ち、ねこを分類しようとしている。（観察、学習プリント） エ 語句には性質や役割の上で類別があることに気付いている。（観察、発言）
	2 (1組本時)	自分の分類の仕方を相手に分かりやすく話す。 ・ペアで自分の分類の仕方を説明したあと、どんなわけ方だったかを聞き手が復唱する。	・分類の仕方を筋道を立てて話せるように話型をつくり練習する。また聞き手は相手の話を復唱し、理解を深められるようにする。 ・ペアでお互いの考えを出し合い、筋道を立てた話し方を理解できるようにする。また、復唱により確実に聞き取ることができるようにする。	イ 自分の分類の仕方が相手に分かりやすく伝わるように手がかりや分け方を明示して話している。（観察、学習プリント）
	3 (2組本時)	話し方のモデルを聞き、大切なことを押さえ、ペアで比べ合う。 ・ペアでねこの分け方について実際に比べ合う。	・モデルを提示した後、気づいたことを発表させ、「比べ合いで大切なこと」を押さえ、話し手と聞き手が気をつけることを整理する。また、話の中心は、「分類の仕方」であることを確認する。 ・モデルや話型を思い出しながら活動させる。 ・話し手はどのように分けかたをはっきり話すこと、聞き手は自分の考えとの相違点や共通点を見つけながら聞くことを確認する。	イ 自分の考えと相手の考えとの相違点や共通点を比べ合い、話している。（観察、学習プリント）
	4	ペアで話し合ったことを全体で交流し、話し合いを振り返る。 ・ペアで話し合ったことを発表し、話し合いを振り返る。	・それぞれのペアの考えを比較させ、相違点や共通点を見つけさせる。 ・話し合いの中で、うまくいったところやうまくいかなかったところを振り返らせ、次回への課題にさせる。	イ ペア内で発表された友達の種類を聞き、一覧表にまとめたりしている。（観察、学習プリント） エ 話し合いの様子を振り返り、考えたことや思ったことを話したり書いたりしている。（観察、学習プリント）
	5	資料「分類」を読み、分類することの意味といろいろな分類の仕方があることを知る。	・自分で考えていた「分類」ということと同じか違うか考えながら読むよう指示する。	ウ 資料「分類」を読んで、いろいろな分類の仕方があることを理解している。（観察、学習プリント）
	6	「分類」についてまとめ、再度ねこの分類について見直し話し合う。 ・ねこの分類を見直し、グループで話し合う。	・前回の自分の分類の仕方を振り返らせ、今回は2つの視点で分類することを中心として話し合わせる。 ・前回の話し合いの課題を確認してから話し合いをさせる。	イ 「分類」について、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合っている。（観察、学習プリント）
ふかめる	7	「分類」をテーマに、調べたいことを決めて、発表の材料集めをする。	・校内を探検し、分類できそうなものをいくつかメモして帰るよう指示する。	ア 身の回りで分類されているものを探して調べ、メモしようとしている。（学習プリント）
	8	インタビューのしかたを知り練習する。 ・3人組でインタビューをし合い、アドバイスし合う。	・インタビューのしかたを知る。 ・インタビューする人、される人、その様子を見てアドバイスする人の3役に分かれよいところや直すところをアドバイスする。役割は交代する。	イ 聞きたいことを順序よく尋ねたり、注意深く聞いて分からないときは聞き返したり質問したり、メモをとったりしている。（観察、学習プリント）
	9 ～ 11	図書館で調べたり、インタビューしたりして、発表の材料を集め、観点を決め、調べたことをまとめる。	・調べたことをまとめられるように、4つの観点(①何がどのように分類されているか ②どのような工夫がされているか ③どのようなことに役に立っているのか ④調べて思ったこと)を与える。	イ 必要なことを調べ、要点をメモしている。（観察、学習プリント）
	12	発表内容の組み立て方のモデルを聞き、組み立て方の確認をし発表内容の組み立てを考える。 ・発表内容の組み立てについて話し合う。	・事柄の順序を考えて話したり、伝えたいことの中心が何であるかを考えたりして、発表の組み立てを考えさせる。 ・聞き手に分かりやすい組み立てで話しているかに注目させ、話し合わせる。	イ 話す事柄を整理し、順序だてて発表を組み立てたり、伝えたいことの中心に気をつけて聞いたりしている。（観察、学習プリント）
	13	発表の練習をする。 ・グループで発表練習をし、アドバイスし合う。	・大事な言葉が良く聞き取れるように話す。 ・グループで聞き合い聞きやすい発表かどうかアドバイスする。	イ 相手を見たり、言葉の強弱、間の取り方等を考えて発表練習をしたり、友達の発表を聞き、アドバイスしたりしている。（観察、学習プリント）
まとめる	14	「分類」発表会を開く。 ・聞き手を意識して発表をする。	・話し手と聞き手のめあてを明らかにする。 ・発表することの中心がよく伝わるように発表したり、友達の発表の良さを見つけたりさせる。	イ 調べた内容が聞き手に伝わるように筋道を立てて、適切な音量や速さで話したり、友達の発表を聞いて、感想を持ったりしている。（観察、学習プリント）
	15	・話の中心を意識して話を聞く。 学習のまとめをする。		

6 本時の指導 (2/15)

(1) ねらい

- ・自分のねこの分類の仕方が相手に分かるように、手がかりや分け方を明示して話すことができる。

(2) 本時の展開

□□□□ はかかわり合いの場

進	学 習 活 動	教師の働きかけ
つ か む 5 分	1 前時の学習内容を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分のねこの分類の仕方を聞き手によく伝えるように話そう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・家で探してきた分類されているものからいくつかを発表し、「分類」とは何かについて、再度確認する。 ・前時のワークシートを見て、自分の行ったねこの分類のしかたについて思い出させる。
か か わ り 合 う 35 分	3 学習課題を解決する。 (1) 聞き手に分かりやすく伝えるためのポイントを確認する。 (2) 個人で話す練習を行う。 (3) 聞き手が復唱することを確認する。 (4) ペアで練習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習形態はペアとし、復唱することで、相互評価ができるようにする。 ペアの組み合わせを変えて数回練習する。 </div> (5) 代表児童の発表を聞き、上手なところを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内の掲示物から、上手な話し方（聞きやすい声の大きさ、速さ）と上手な聞き方（話し手を見る、分からなければ質問する）等の技能面を初めに確認しておく。 ・聞き手が分類の仕方を分かるように話すために、話に入れなくてはならないこと（手がかりや分け方）に気づかせる。 ・モデルとなる話型を示す。 「わたしは、〇〇を手がかりにしました。分け方は〇つです。〇〇と〇〇（と〇〇）です。」 ・ねこの特徴を話すときに、図を指差しながら話すと分かりやすいことにも気づかせたい。 ・声の大きさや速さ、目線なども意識させて練習させる。一つできたら二つ目の分類にも挑戦させる。 ・個人練習を生かし、一度隣同士で話してみる。 ・その後、本当に話したことが分かったかどうかを確かめるにはどうすればよいかを投げかけ、復唱することの有意性に気づかせる。 「□□さんは、〇〇を手がかりにして、〇〇と〇〇（と〇〇）の〇つに分けたんですね。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 復唱することにより、注意深く聞くだけでなく、正しく伝えられたかどうか、話し方も確かめることができる。ふり返しシートを用意し、チェックしながらペア練習を進められるようにする。 組み合わせも変え、練習回数を確保する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・復唱だけでなく、目線やうなずき等の良さにも気づかせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 評価規準 A：聞き手を見ながら手がかりや分け方を明示して分かりやすく話している。 B：手がかりや分け方を明示して分かりやすく話している。 （C児への手立て） 話型プリントに書き込ませ、話す練習をする。 </div>
み と め 合 う 5分	4 本時の学習をまとめる。 (1) 自己評価で学習を振り返ったり、感想をまとめたりする。 (2) 感想を発表する。 5 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントに記入させる。感想には、「うまく伝えられたところやうまく伝えられなかったところ」「今日わかったこと」などについて書くように、観点を伝える。 ・家の中にある分類されたものについて、学習した話型で文章に表して家庭学習にする。 ・次時は自分の分類と友達の種類を比べて話し合う学習をすることを知らせる。